

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」 急性期活動実習(BHELP)を実施しました (2019/12/14, 15)

テーマ：日本災害医学会 地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース (BHELP)
場 所：東北大学災害科学国際研究所 (宮城県仙台市)

2019 年 12 月 14 日 (土)、15 日 (日)、宮城県仙台市の東北大学 災害科学国際研究所で第 1 回・第 2 回宮城 BHELP 標準コース (共催：コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム) を開催しました。2 日間合わせ、東北地方を中心とする保健医療従事者 (医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、事務職員)、行政職員ら 71 名が受講し、延べ 40 名のインストラクターが講師として参加しました。

日本災害医学会 BHELP (Basic Health Emergency Life Support for Public) 標準コースは、災害発生直後の緊急避難場所・指定避難所の設営、運営を被災者の生命、健康維持の観点からサポートできる人材を育成するためのコースです。災害時の避難者のなかには多くの傷病者、要配慮者が存在します。保健医療福祉の観点からどのようにトリアージし、サポートし、外部機関につなげればよいか、座学やグループワークを通して概念、スキルを学習します。佐々木宏之 准教授 (災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野) は宮城県で初開催となった今回のコース運営責任者・講師として準備運営に携わりました。グループワークでは、異なる職種の観点から、要配慮者への支援の在り方、外部との連携について熱心な討論がくり返されました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では年間を通じ、災害保健医療に関するさまざまな講演、実習を実施しています。佐々木宏之 准教授はプログラム運営企画委員会委員・実習コーディネーター、講師として運営に携わっています。来年は 1 月 13 日 (月・祝) にロジスティックサポート実習 (宮城県医療救護活動従事者研修会) が当研究所で予定されています。

2020 年の講義予定も「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」HP (<https://www.dcmd.hosp.tohoku.ac.jp/curriculum/entry/>) に掲載されており、オープン参加として履修生以外の参加も受け付けています。



BHELP 概要を座学で学ぶ



グループ討議内容を発表



深部静脈血栓症について検討



感染症対策の handover
検討内容を記載する



避難所のレイアウトを
保健医療福祉の観点から検討



第 1 回宮城 BHELP 標準
コースインストラクター

文責：佐々木宏之 (災害医学研究部門)